

## 会議結果のお知らせ

### 1 開催した会議の名称

令和6年度第2回大分県立図書館協議会

### 2 開催日時

令和6年11月22日（金）14:00～15:30

### 3 開催場所

大分県立図書館 3階 特別会議室

### 4 出席者

(1) 委員（10名中9名出席）

佐藤(晃)委員長、大島委員、佐藤(真)委員、後藤委員、長尾委員、植田委員、甲斐委員、川原委員、佐藤(栄)委員

(2) 事務局

石掛大分県立図書館長、南副館長、馬場副館長兼学校・地域支援課長、増田総務企画課長、梅田サービス課長、増本郷土資料室長、ほか担当総括

### 5 公開、非公開の別

公開

### 6 傍聴人数

0名

### 7 次第

報告

(1) 答申「障がい者等の読書環境の整備について」の取組状況について

(2) 令和5年度大分県立図書館運営の状況に関する評価について

議事

・「大分県立図書館運営ビジョン2025」の策定について

その他

・豊の国情報ライブラリー開館30周年記念事業について

### 8 主な審議内容及び会議録の概要

●事務局説明

報告（１）について、事務局から以下の資料に基づき説明を行った。

- ・資料２：大分県立図書館協議会答申取組整理表

主な委員意見、回答は以下のとおり。

○委員意見

電子書籍のオーディオブックを購入しているとのことだが、視覚障がいのある方の利用状況はどうなっているのか。数的なものだけでなく、感想程度でかまわないので教えてほしい。

視覚障がいのある方は、自分たちだけでは外出ができず支援者を必要とするが、月に 50 時間、1 日 2 時間しかサービスを受けられないため、本を借りに行くことも難しい状況である。図書館に来ること自体が難しい方には、本を届けるとか、そうした取り組みが今後必要なのではないか。

●事務局回答

オーディオブックについては、今導入を検討しているところ。

電子書籍の中で音声の読み上げができるものは数点入っているが、県立図書館が導入している電子書籍サービス「KinoDen」の中では、純文学などが 100 点未満ぐらいのタイトル数で、それほど豊富ではない状況である。

●事務局回答

障がい者向けには宅配サービスを行っており、要望があれば、サピエ図書館の録音図書や再生機の貸出しも行っている。

昨年に続き、今年もバリアフリー読書体験会を実施する予定にしている。機械による読み上げ体験や、マルチメディアダイジェストを使った読み聞かせ会などを行う予定にしているので、今後広く周知をしていきたい。

ヘルパーの方が実際カウンターに来て、利用者の本を借りていく事例があり、徐々にサービスが浸透していることを実感している。

○委員意見

地方に住んでおり、大分県立図書館に来られない方も多くいるので、市町村との連携の中で何ができるのかということも検討してほしい。

●事務局説明

報告（２）について、事務局から以下の資料に基づき説明を行った。

- ・資料４：大分県立図書館運営の状況に関する評価

●事務局説明

議事「大分県立図書館運営ビジョン2025」の策定について、事務局から以下の資料に基づき説明を行った。

- ・資料1：大分県立図書館運営ビジョン2025（素案）
- ・参考：大分県立図書館運営ビジョン（2021改訂版）

主な委員意見は以下のとおり。

○委員意見

「子どもの読書活動の推進」の中の「家庭の読書活動支援」というのは、どのような形で行うのか。

●事務局説明

県行政が家庭の中に入っていくことは難しいが、子育て関連イベントなどを通して、絵本の面白さや、読書の有用性などを知っていただくというようなことを考えている。

また、障がいを持っている子どもや、日本語を母語としないような家庭にも何かアプローチできないかと考えている。

○委員意見

家庭に入っていくことは難しいが、家庭に働きかけることは大変重要だと思う。幼児期は読書の基本的な土台になる時期だと思う。幼児期に人生で初めて絵本に出会うという体験を充実させていただきたい。

●事務局回答

家庭の読書活動の推進は、県立図書館だけではなく、県の社会教育課も読書推進事業を行っているので、そことの連携も進めていきたい。

○委員意見

「家庭の読書活動支援」という一言だけだと誤解を受ける可能性があるので、「子育て関連のイベント等を通して」など何か一言あると、図書館が実施することがイメージしやすくなるかと思う。

○委員意見

ビジョンを作るにあたって、県民の意見はどのような形で集めて、生かしているのか。県立図書館が提供したいものは何かというところに重点が多いように見える。

●事務局説明

パブリックコメントを取るということまでは考えていない。この協議会のな

かで様々な意見をいただき、それを反映させていくという形をとっている。

#### ○委員意見

資料4の「大分県立図書館運営の状況に関する評価」の中で(6)「社会教育の推進と生涯学習情報の提供」の右の委員意見のうち一番上のものは私が意見したものだ。大分県図書館大会で、立命館大学の久野先生の話(「子どもの居場所としての図書館」という題で講演)を聞き、大分県の図書館もそういう形で展開をしていただけないかと思っている。

#### ●事務局説明

ビジョンの重点的な施策の1.「多様な県民が利用できるサービスの提供」の「誰もが利用しやすく安全な施設・設備の充実」のところは、立命館大学の久野先生がおっしゃったことが反映される部分になると考えている。

#### ○委員意見

今回のビジョンと立命館大学の久野先生の話とではギャップがあると思い、全国の県立図書館のプランを調べた。石川県立図書館の中期経営プランの基本理念は「思いもよらない本との出会いや体験によって、自分の人生の1ページをめくることができる場所」となっていた。

県立図書館が出しているビジョンは骨格であり、ここに肉付けをしたような理念が必要なのではないか。このビジョンは、インフラ整備というハードもしくはソフトであり、それ以上のことで何を期待するかというと「心」である。他県のビジョンには、例えば、「読書をしない人など、本に近い人じゃない人に来てもらう」というようなことを書き込んでいる。そのような内容を大分県立図書館のビジョンの中で考えられないかということをご提案する。

#### ●事務局説明

本との関わりが薄い人にどう伝わるかという視点も踏まえたうえで、内容について事務局の方で検討させていただきたい。

#### ○委員意見

2021年のビジョンと2025年の素案とを見比べて、2021年のビジョンの「利用者目線のサービスにむけた具体策」の「多様な県民が利用できるサービスの提供」の中に、例えば「やさしい日本語」とか「ホームページ・SNS等の活用」との記載があるが、このような文言がどのように変わったのかを教えてください。

#### ●事務局説明

今回のビジョンの中には「やさしい日本語」という言葉は表記していないが、館内の掲示物には「やさしい日本語」の表記を心がけている。学校・地域支援課では「やさしい日本語」の普及を今後も進めていくので、言葉がなくなったから

とって取り組み自体をやめたわけではない。

前回までのビジョンの中に表記している言葉で、今回表記していないものもあるが、全くなくなった、役割が終わったというわけではなく、中身が変わってきていると捉えていただきたい。

#### ○委員意見

この素案の基本方針のところ、コンセプトとして「専門性」と「多様性・広域性」と記載されているが、「専門性」が「多様性・広域性」に比べて上位になるという認識なのか。

この「多様性」と「広域性」という本来的には別の言葉を括弧でくくっているが何か意図はあるのか。

#### ●事務局説明

「専門性」についてはすべての根底にあると考えて切り分けて記載しているが、改めて事務局の中で検討させていただきたい。

#### ○委員意見

これは大分県立図書館のプランなのか、ビジョンなのかというところが気になっている。

県立図書館が運営をする際にどのように運営をしていくのかということも挙げているのか、それとも県民向けに計画プランを立てて、どのようにしていくのかということを示しているのか。

#### ○委員意見

運営ビジョンなので、県立図書館がすべきことを並べているということにはなるのかもしれないが、県民に伝えるときに、どのような形であればより伝わるかということも検討していただきたい。

#### ○委員意見

ビジョンの重点的な施策の4.「市町村立図書館・学校図書館等の支援」で、県立図書館が大分市に立地しているため、来館者は大分市周辺地域が多くなるのは当然だが、県レベルで考えると、受け取る情報、受け取る本という部分では、市町村のどこでも同じ質を担保できるようにしていただきたい。

県立図書館の方で、市町村の図書館との協力体制、支援体制を十分に図っていただきたい。

#### ○委員意見

学校図書館に対して団体貸出を行っていることは知っているが、図書館の業

務に関わっていないような職員には周知されていないのが現状である。

例えば、他方でどんな事例があるのかとか、こういう本の活用の仕方が喜ばれたなどの情報があると、校内の職員にも周知しやすい。推薦入試、総合型選抜入試などで本を使うことは多いが、どのような本を選んでいいのか子どもたちもわからないし、職員にもどのような本を薦めたらいいのかわからないので、そのようなことを教えてくれるシステムがあったらいいなと思う。

A Iとかビッグデータを活用して、学校現場にうまく使い方のレクチャーができるようなもの、そういうシステムが構築されるといいなと考えている。

#### ○委員意見

子どもたちは毎日1回はタブレット端末を使って学習をしており、結構な頻度で調べものもしている。その時に、ボタンを押せば、県立図書館の資料がすぐ調べられるようなアプリがあると、学習の中で活用できそうだと感じた。

#### ○委員意見

協議会の議事内容について、すぐにではなくても、何ヶ月か後にはホームページにあげていただきたい。

#### ○委員意見

令和6年8月の時点で、書店が1店舗もないところが15道県24市あるというのを聞いた。このような状況に危機感を持ったことで、図書館で本の販売をしようという実証実験が始まろうとしている。県立図書館でも同様の取組を検討していただけたらありがたい。

#### ○委員意見

ビジョン2025の素案の6つの柱が、2021年のビジョンのものと変わっていない。

県民に県立図書館はこのようなビジョンでやっていくと示すためには、変わっているところを見せるような柱立てができれば、新しいものになっていることを見せやすいのではないかな。

特にDXの話だったり障がい者をはじめとする多様なニーズの話であったり、そういうことが柱としてあがっていると、今の社会の変化に合わせたものが作られていると感じられるのではないかな。